

令和五年度 卒業式 式辞

寒さが残る中に春の兆しを感じる今日の良き日に、大阪府立東高等学校第七十六回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、ご多忙中にもかかわらず、ご来賓の皆様方、本校関係の皆様方に多数ご臨席を賜りました。卒業生の門出に花を添えていただき、誠にありがとうございます。厚くお礼を申し上げます。

卒業生の保護者の皆様、本日は、誠におめでとうございます。本日、卒業を迎えられたお子様の立派な姿に感慨もひとしおのことと存じます。心からお祝いを申し上げますとともに、これまでの本校教育活動にご理解、ご協力を賜りましたこと、誠にありがとうございました。

さて、ただいま、三百八名の皆さんに栄えある卒業証書を授与いたしました。卒業生の皆さん、卒業おめでとう！ 思い返せば、三年前、私は皆さんの入学とともにこの東高校に赴任しました。

その三年前の入学式で、私は皆さんに心がけてほしいことを三つ伝えました。

一つは、「God helps those who help themselves」。日本語で、「天は自ら助くる者を助く」ということわざです。自分のすべきことに一生懸命取り組むことで、周りから応援される人間になってほしいと伝えましたが、結果として、この三年間、ずっと皆さんを応援している私がいました。

二つめは、「何事にも疑問をもち、じっくりと、深く考えること」です。これは、まさに「探究」の時間で実践してくれました。「問い」を持ち、じっくり深く考える経験は、得られた答えだけでなく、むしろ、その過程こそが次の自分づくりにつながります。

そして、三つめは、「自分を過小評価せず、今日の前にあることに全力を注いでほしい」ということです。皆さんは、この三年間、全力で取り組んできましたか。今の自分自身をどう感じていますか。

答えは、それぞれ自分の中にありますが、私は、皆さんがこの三つのことを見事に体現し、素晴らしい三年間を過ごしてくれたことを実感していますし、その時間をともに過ごせたことを嬉しく思っています。

皆さんは入学以来のコロナ禍においても、辛抱強く、東高校のルールの中で、勉学や学校行事に誠実に取り組んできました。制限が緩和されてからは、さらにエネルギーになり、日々の豊かな表情に若者の無限の可能性を感じました。

特に、最上級生として臨んだ、昨年秋のE-Fes文化の部における、皆さん一人一人の達成感に満ちた笑顔と、会場が一体となって喜び合う姿を、私は忘れることができません。

私は、そういった皆さんの、周りを楽しませようとする思いやりの気持ちと、何事にも全力で取り組む態度に感心するとともに、とても頼もしく感じました。今日のこの日を迎えるまで、努力と工夫を重ねた皆さんにあらためて敬意を表します。

さて、今年度、東高校は創立100周年を迎えました。その記念式典は、皆さんにとっても記憶に残っていると思いますが、創立100周年という記念すべき学年の卒業にあたり、はなむけの言葉を贈ります。

それは、吉野源三郎さんの小説「君たちはどう生きるか」の中で、主人公の中学生コペル君に向けて、叔父さんが話す、次のセリフです。

「もしも君が、学校でこう教えられ、世間でもそれが立派なこととして通っているからといって、ただそれだけで、言われたとおりに行動し、教えられたとおりに生きてゆこうとするならば、それじゃあ、君はいつまでたっても一人前の人間になれないんだ。子供のうちはそれでいい。肝心なことは、世間の眼よりも何よりも、君自身がまず、人間の立派さがどこにあるか、それを本当に君の魂で知ることだ。そうして、心底から、立派な人間になりたいという気持ちを起こすことだ。いいことと悪いことの判断をしてゆくときにも、また君がいいと判断したことをやってゆくときにも、いつでも、君の胸からわき出て来るいきいきとした感情に貫かれていなくてはいけない。」

そして、「君自身が心から感じたことや、しみじみと心を動かされたことを、くれぐれも大切にしないではいけません。それを忘れないようにして、その意味をよく考えてゆくようにしたまえ。」

この小説は、今から八十年以上も前の作品ですが、このたった三年の間にも、AIの進歩により、一瞬にして文章の作成や架空の映像の作成が容易になったことを考えると、私は、まさにこのセリフが、これからの時代において、最も大切なことを示唆している気がしてなりません。

今後、情報過多の時代に生きる皆さんには、今を生きる大人よりも、より寛容で、人間らしく生きるための豊かな感性が求められます。どうか、高校生活で身につけた「問う力」をさらに磨き、何事も「自分事」として深く考え、人の心に寄り添える人になってほしいと思います。皆さんの、その優しさと吸収力、そして沸々と湧き出るそのエネルギーがあれば、きっと大丈夫です。これからの人生、胸を張って歩いていってください。

そして、今日はその証として、このあと、皆さんには、昨年まで、十分に声を出して歌えなかった「校歌斉唱」をぜひお願いします。三年間の思いを「東雲」に込めて、力強く歌ってほしいと思います。

最後になりましたが、この日を迎えられたのは、日々温かく深い愛情を持って、皆さんを支え、励ましてくださったご家族やたくさんの周りの方々のご支援のお陰でもあります。どうか感謝の気持ちを忘れないでください。

卒業、本当におめでとう。君たちとの時間は、本当に楽しかった。ありがとう。皆さんの輝かしい人生を心から祈念して式辞といたします。

令和六年三月一日

大阪府立東高等学校 校長 寺本 圭一